

稚松会だより



～令和初の
からたち祭
(9月)～



～先輩お手をどうぞ～

～平成最後の
ダンスパーティー
(4月)～



「おいしいやきそば～だよ。」
～からたち祭り～

第64号
発行所 福島県立白河旭高等学校 稚松会
編集兼発行人 稚松会会長 渡辺美恵子
祐古楓堂堀川印刷所

令和を迎えて



昭和四十年卒
稚松会会長
渡辺 美恵子

稚松会の皆様お元気ですか。私は令和二年新たな気持ちで役員会のため学校に向いました。真っ直ぐな道を歩いていると、目前に「白河旭高等学校」と書かれた門柱が強く目に入りました。その門を自信あふれた姿で出入りしている生徒達が輝いて見えました。私達の、門がなく鉄鋼の壁の間から校内に入っていた事が思い出され、現生徒達が大変羨ましく感じました。そんな気持ちで門を入ろうと、ふと振り返ると「白河女子高等学校」と書かれた門がありました。あ、我々の門だ、やっと門を通る事ができたのだと嬉しく思いました。その門柱は「白河旭高等学校」と「白河女子高等学校」が背中合せに書かれています。それを見てみると「白河旭高等学校」の子供が「白河女子高校」の母親に背中合せに寄り添って立っている姿が見え、微笑ましく感じました。

と同時に母と子が力を合せてしっかりと学校を守っているのだと伝統の重みを感じました。又門の両側に生徒達の活躍の看板が多く立っておりました。その中で思い出される一場面が野球大会です。選手は勿論ですが、親御様の方々、吹奏楽部、先生方、在校生が一つの玉を追い、一丸となつて応援していました。その姿はまさしく「ワン・チーム」のものでした。又在校生だけでなく、卒業生もいろいろな所で活躍しております。その一つ「白河まちなか国際音楽ウィーク」に出場してくれました「パントマイム」の佐藤由美さん、すばらしい表現でした。きっと己を磨く努力を重ねたのでしょう。その努力が人に感動と力を与えてくれます。これからも多に努力し、己を研鑽して輝いて下さい。それぞれの皆様が輝けば稚松会も発展してゆきます。

不易と流行について



校長 菊池直之



稚松会の皆様には日頃より、本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度四月に第39代校長として着任以来、伝統の新入生歓迎ダンスパーティーや稚松会総会等の折りに触れて、創立105年の歴史の重みと皆様への母校への溢れる愛情と大きな期待を感じ、身が引き締まる思いです。

在校生は、稚松会を始め多くの皆様からの温かい眼差しの中、日々学習と部活動等に全力で取り組んでおります。陸上競技部は、沖縄県で開催されたインターハイ全国大会に二名の選手が出場し、茨城国体では三段跳で七位入賞を果たしました。また、佐賀県で開催された全国高等学校総合文化祭には、美術部と文芸部から二名の生徒が県代表として参加しました。さらに、夏の高校野球福島県大会で野球部は、創部以来初のベスト8進出という結果を残しまし

た。最後の二試合は全校応援を行い、学校全体が大いに盛り上がりました。他にも、生徒たちは様々な分野で顕著な成績を収め、光り輝く姿を見せてくれております。

八月末の「からたち祭」の一般公開当日は、150名を超える入場者で校内は大変賑わいました。稚松会の皆様も多数来校され、今回のテーマ「常笑」のとおり、いつも笑顔で何事にも精一杯取り組む後輩たちの姿を、ご覧いただけただけものと思います。

一方で、近年の全国的な少子化の波は本校にも押し寄せ、今年度の入学生から一学年四クラスと学級減になりました。時代の要請に応じて、本校にも様々な変化がもたらされませんが、「明るく、優しく、正しく」という校訓の下、地域に根ざした学校であり続け、社会に貢献できる高い志を持った生徒を育成することが、本校に課せられた使命であると考えております。今後とも、会員の皆様の変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

白河旭高の残像



第二十九代校長 成田 努



私が停年退職する前年、突然高校教育課長より男女共学校への改正命が届きました。続いて教育長、県知事の来校があり驚きの連続でした。当時は空戸初子稚松会会長、PT

A会長は林慎重氏、副会長は当時埴町に住んでいた藤井氏で、情熱のある有能な方々ばかりでした。余計なことですがその藤井さんは、現在私の家の隣に新居を構え、毎日のように思い出話に花を咲かせております。

ある時、林会長と全国PTA総会の帰り、私が学校の様子を見て帰りたいと話しますと「夜も八時過ぎですから誰も居ないでしょう」と仰っしゃる。兎に角、学校まで行ってみましょうと私が云うと驚いたことに職員室に若い先生方が五、六名翌日の授業の準備をしていたのです。

その時私が咄嗟に思いついたのは、自分が四年のうち三年間専攻した漢

文であったのです。当時の共通一次の国語は漢文が四分の一を占めていました。土曜日は出張も会議もなく誰にも迷惑はかけないと考えました。私の拙い講義も生徒諸君は熱心に聴講してくれました。この時の卒業生は五十三名が国公立、私立も含めて現役合格を果しました。

私を教師として完成させてくれたのは、この土曜日の四コマの授業であったのです。管理職より授業が私の性に合っていると、この時気付きました。満ち足りた日々は、実は目の前にあったのです。

二十年が過ぎてもこの残像は教師の宝だと信じています。

陽を集む

野菊一群体なつかしき



同窓生からの便り



歯科医師と声楽

昭和50年卒

塩谷 裕子



幼い頃から、何よりも音楽が好きだった私ですが、進

学の事もあり、声楽禁止の三年間でした。とはいえ、素敵な仲間達に囲まれて過ごした高校生活は、本当に幸せでした。

私が、再び声楽を志すきっかけとなったのは、今井久仁恵先生との出会いでした。クラシックの美しい旋律に衝撃を受け、ペアを組んだピアノの感性にも強く影響されました。声楽家として舞台上立つ時、歯科医師、家庭人としての生活は私の個性であり、自分の持つ背景であると気付かされます。11年目となる薬物依存症回復施設の為のチャリティーコンサートですが、もう少し続けられたら幸いです。

中欧ポロランドより

平成元年卒

佐藤 由美



高校より演劇活動を開始、教員採用を辞退して人気劇

団の研究生へ。良い役が見つかず辛い20代でした。30歳目前世界的なパントマイムの師と出会い、セリフ役者から身体の役者へ転向します。訓練に次ぐ訓練の日々。以後、イベントや学校公演で全国へ。言葉を越えた表現手段を持つてから世界が一変しました。

2015年より中欧ポロランドに移住。現地の俳優たちと国際マイムフェス出場。夢を果たしました。ポロランドではパントマイムがセラピーに応用されています。これを日本に持ち帰ります。さあ、何が仕事になるか分からない時代の幕開けです！

五(ご)縁

平成5年卒

有賀 圭子



高校時代、私は合唱部に所属し、部長を務めさせていた

だいております。ご縁がありまして合唱部後輩のお兄さんと結婚する事となり、現在新甲子温泉「五峰荘」の女将として日々奮闘しております。旅館には同校卒の諸先輩方との出逢いもあり昔話に花が咲きます。同じ世代でなくとも白女が縁を結んでくださいます。

大自然に囲まれ、源泉かけ流しの温泉でほっとするひと時をお過ごしただけの様、これからも精進してまいります。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

伝統を繋げる

平成21年卒

太田 唯雅



伝統芸能の踊りを次世代に繋げることが私のテーマで

す。私は、白河民舞愛好会三代目として、白河女子高校の卒業生である二代目の母と民踊民舞の指導をしています。白河民舞愛好会は、初代の祖母が昭和四十二年に立ち上げ、五十二年の歴史があります。残念ながら祖母は、一昨年帰らぬ人となりましたが、祖母の舞踊道は母と私、そしてお弟子さん達に承継されています。

私が踊り続けることができてきているのは、在学中担任の先生に応援頂き、踊りを通して得た経験を活かせる大学を紹介頂いたおかげです。これからも旭高校での学びを胸に芸を精進して参ります。

もう一度

平成25年卒

若松 遙



いつかゲーム会社で働きたいという小学生の頃の夢。

それは思ったより早く叶いました。ただ早すぎたのかまだまだ大人になりきれない私は不安の日々。今まで夢に向かって進んできた分、360度一周してまた0に戻ってきてしまったのでしょうか。

そんな時思い出すのは学生時代の事。部活でも勉強でも、何度失敗したとしても、それまでの努力は無駄にはならないうんだっていうのを教えてくれました。360度で一周して0に戻ったのではなく、それは361度目なんだと。もう一度振り出しの0の位置とは違う361度目の位置から進んでいきたいと思えます。

礎固きわが白河の… 昭和・平成・令和の時代を歩むわが稚松会 ～あれからとこれからと～

節目の令和元年度の今年、稚松会だよりも第64号の発行を迎えました。大正、昭和、平成、そして令和の時代を歩むわが稚松会の越し方を振り返り、未来へのさらなる発展・飛躍の思いを込めて、特集記事を組みました。懐かしい写真もご覧いただき、母校の思い出を偲んでいただければ、幸甚に存じます。

終戦後の学校



昭和15年卒業
穴戸初子

教職員の数も少なく出入りも多い大変な時代でした。体育は私一人、現在想像も出来ない有様でした。そこに大卒の素晴らしい教員が入る、その名こそ結城勝夫先生。白高を振り切り白女に、これからは共学になる。私は女子の経験がない。だから白女に行く。この一言が私の十七年間の全国大会の道しるべになったのです。「よし追いついてゆこう」の心が私の運命に灯をくれたのです。



稚松会総会・歌手を招いて

雨の日も風の日も校庭に立つ先生の姿。暗くなつて体育館に入る(演劇部のステージが空くのを待っていたのです)そこでストレッチが私をまたひきつけました「陸上に負けるな」が私の心に火をつけました。父兄に「送りますから練習をさせて下さい」の許しをとり、器械体操の倒立すら出来なかつた私を、安高の高橋先生、須高の清水先生、日大の和田先生が指導してくれたのです。生徒と



東原さんは、長年調停委員としてご活躍され、藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

白女バス運行の思い出



お嬢バス初代会長
星 総男

白女バス運行を始めて三十余年の間に福島交通・JRバスの変更がありました。塙・矢祭から通学する生徒は、通学時間短縮で大変喜ばれました。現在は人口減少で白河通学生徒の減少のため、バス運行が廃止に成つてしまいました。残念であります。



白女バス時代別称「お嬢バス」

共に泣いた日の数々、こうして陸上と共に全国大会に、結城先生の夢はありませんでした。常に先生の指導の姿は私の脳から消えることなく、「目的あつて時は越えられる。目標なくして頂上には上がれない。人は見ている。手を差し伸べてくれる。」

多くの方々力と業を頂き、全国大会での立派な指導者に学び「大学の合宿にまで招いて頂き、生徒の父兄に助けられて幸せの宝を頂きました」その根本は結城先生です。手を合わせて先生に感謝と御礼を申し上げます。

今悲しいのは、白女を去つて女の事務局に入り間もなく、旭に器械体操部が無くなつたことです。淋しいです、くやしいです。「苦勞あつて大きな実を結ぶ」こんな若い先生が育つてほしい、心から願ひ待っています。今、私は教え子の皆さんに助けられて、幸せをいただいて生活しています。これも大きな感謝です。宝です。ありがとうございます。

懐かしい思い出



昭和25年卒業
伊藤 ロク

白女二年生の夏に終戦。来る時間、来る時間教科書の塗りつぶして落ち着かなかつたことを思い出す。また学校制度変革に翻弄され

運行の実現には、福島交通・塙・矢祭の行政と父兄・生徒の話し会、二度の全体会で、各関係者の意思の一致に約二年かかりました。現在は、全国の人口減少により学校の統廃合等で、益々教育に対する環境は厳しくなるばかりであります。これからの子供達の良き教育を考え、国・県が環境作りに邁進する様に、希望します。

白河女子から白河旭へ

平成9年卒業
高坂実恵



白河女子高校時代の制服姿
～全日本合唱コンクール出場～

私は、入学も卒業も白河女子高等学校となる最後の年の卒業生です。在学中は十キロ以上の道のりを毎日自転車通学し、弓道部に所属していたので体力、精神力共に培う事が出来たと感じています。最近になり、お友達のお子さんが友人にも先生にも恵まれて、楽しい高校生活を送っている様子を見聞きするうちに改めて母校の素晴

た学年でもあった。四年制、五年制、新制高等学校と変わり、一堂に会して卒業式はなかった。止むなく四年で止めた友は修了証で学校を去つた。

新制高等学校まで進んだ組は今まで長年禁止されていた修学旅行が解禁となり松島瑞巖寺、宮澤賢治の花巻を尋ねる二泊三日の旅行だったが小踊りして喜んでお返しを思い出す。食糧難の時代で物々交換でなければ何も求められなかった時、母の作った弁当、おやつを分け合った宿の一夜。



大正2年当時の木造校舎

J・R・Cに乾杯!



昭和36年卒業
金内かねこ

私の学び舎は先輩達の息吹が感じられる趣ある木造校舎でした。当時J・R・C委員だった私が印象に残っているのは、母校で開かれた県大会のことです。戦争で犠牲になられた母校の先輩に涙し、人を思いやる心の大切なこと等を学び、とても感動したのを覚えています。今ある

らしさを再認識する事が出来ました。

時期は、母校が母校ではなくなつてしまった様な寂しさを感じた事もありましたが今では娘も旭高校に憧れ、私の母も白女の卒業生なので、親子三代目指せたら素敵だと思えます。

吹奏楽部ができるまで

平成17年卒業
門傳恵利佳



令和元年6月定期演奏会にて
左より菊池直之校長、門傳(芳賀)恵利佳初代部長、緑川ななみ現部長、志賀悠亮顧問

旭には吹奏楽部が無い。これが原因で別な高校へ進む吹奏楽仲間を何人も見えました。無ければ創ればいい。その一心で集まった五人の愛好会メンバーは、自分で楽器を買い、他校からポロポロになった楽器を頂き、吹奏楽を創りたいのですとイベントに参加しては演奏する機会を増やしていきました。そして翌年には四十名を超える入部希望があり、晴れて創部となりました。

自分の命が奇跡のような巡り合わせで生かされたことを知り、悔いなく生きていく切に思いました。幸いにも後年、魅力ある先輩のなさつていた「自強術」を知り、二十数年になりますが、今や私の生きがいです。巡り会えたのは、遠い日に願ったことかもしれません。



昭和のダンスパーティー

昭和四十年代の思い出

昭和44年卒業
東原由美子

当時はまだ白女時代。「良き家庭婦人を育てる」という校是のもと、穏やかでゆとりが校風でした。進学クラスも「応文系」と理系と二クラスずつありましたが、理系クラスの半分以上は就職あるいはゆるゆる家事手伝い志望で、授業は進学する七、八名が前に座り、残りは後ろに固まつて、先生黙認で編物・読書等に興じていたものでした。一方、バレーボール・合唱等のクラス対抗大会には、皆一丸となつて練習に余念がありませんでした。

あれから半世紀。現在の旭高校は進学率も向上し、若いながら、文化センターを埋め尽くすほどの大人気となつており初代部長として大変誇りに思っています。今後の白河旭吹奏楽部の活躍が楽しみです。

平成最後の卒業生として



平成31年卒業
被川 裕 貴

私は旭高校を平成三十年に卒業しました。稚松会のお便りを見て、稚松会総会、懇親会に参加しようと思いましたが、懇親会では、おいしい料理や会員との交流、ゲームもあり、とても楽しい時間を過ごすことができました。参加してみても、先輩方が優しくおもしろい方々で、稚松会の雰囲気も良くて、参加して良かったと感じました。

今、私は調理の学校へ進学し、調理の勉強に毎日励んでいます。そして技術向上に必死に取り組んでいます。自分のやりたいことを学ぶことはとても楽しく、毎日大変充実した日々を送ることができています。



令和のダンスパーティー



各支部代表の方々

新年会・支部長・幹事会



役員、顧問、相談役

「稚松会新年会」という未知の世界を預かった私達耳順の会はどうやってこの重責を果たすか…という、計り知れない緊張の中で、「心を込めて、この時を作ろう」という目標を掲げました。同級生とは不思議な関係で四十二年の時が経っても、集まればたちまち十八歳の乙女達にタイムスリップ！賑やかに、色々なアイデアが飛び出して来ました。

アトラクションでは、オカリナの優しい音色に浸り、皆様と共に楽しい「時」を過ごせたことは大きな喜びです。

昭和五十三年卒業
須藤厚子

「この時」に心を込めて



耳順の会

「礎固きわが白河の…」数十年前ぶりに歌う校歌。母と娘と肩を並べて歌う校歌に、胸が熱くなりました。同時に高校時代の記憶、楽しかった思い出が蘇ってきました。

桜咲く校庭でのダンスパーティー。今でも色褪せることなく、春になり桜が咲くと思ひ出します。これから娘は、旭高校で沢山の思い出を作ることでしょう。母と娘と同じ学び舎での思い出話ができることに喜びを感じております。

これからも伝統ある白河旭高校、稚松会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

平成三年卒業
佐藤万記子

親子三代表彰を受けて



小河先生ご夫妻によるオカリナ演奏

「耳順の会」を通して、繋ぐことの大切さ、素晴らしさを、改めて実感させて頂きました。

次期耳順の会

昭和五十四年卒業

川瀬光子

「心は足に出る」白河女子高校時代に稚松会名譽会長穴戸初子先生より頂いた言葉です。やる気があつて心が踊っている時は足がよく動くが、やる気が無く不安な時は足は止まるのだと。この言葉は還暦を迎える今でも私たちの心に教訓として残っています。

今の私たちがいるのは、先輩方やご指導頂いた方々のお陰であり、感謝の気持ち忘れず、思いやりの心を持って歩み続けて来ましたが、この度耳順の会として、再び同級生が集い、足取り軽やかに役目を果たす事でお世話になった学校はじめ関係者の方々への恩返しに繋がれば幸いです。

「親子三代お祝い」対象者

生徒	保護者(旧姓)・卒業年	祖母(旧姓)・卒業年
金澤 麻央	金澤 裕子(佐川)・H3	佐川タミ子(尾股)・S39
佐藤 朱里	佐藤万記子(黒須)・H3	黒須ヨネ子(緑川)・S42
筒井海南子	筒井 貴子(渡邊)・H4	渡邊 智子(平原)・S40
仁平 初音	仁平 明子(高桑)・H6	高桑 洋子・S44
飛知和春那	飛知和育子・S63	飛知和良子(渡辺)・S37
本宮 優聖	本宮 暢恵(有賀)・H6	有賀 悦子・S34

親子三代表彰式のようす



文武両道

— 頑張る 白河旭高生 —

最高の夏

野球部



三年 菊 地 海 斗

令和最初の夏、三年生にとっては最後の夏に白河旭高校史上初の夏の大会ベスト8という素晴らしい結果を残すことができました。

二年生の時の秋の大会、新チームの主将として望んだ初の大会でしたが悔しくも県大会に出場することができませんでした。しかしそれからの冬季練習、春の大会県大会十年ぶりの出場と大きくチームが成長し数々の戦いで勝利することができました。その成



果もあり夏の大会の結果につながりました。それだけではなく、なによりずっと支えてくれた保護者、指導をしてくれた先生方、当日応援に駆けつけてくれた全校生徒、先生方の熱い声援のおかげでつかみとった結果です。主将として刻んだこの歴史を糧として未来に歩いていきたいです。

東日本大会に向けて

ソフトボール部

二年 平 野 百々花



私たちがソフトボール部は、秋の新人戦県大会で三位入賞という成績を収め、三月に山梨県で行われる東日本大会に出場する権利を獲得することが出来ました。

私たちは、相場先生、鈴木先生のご指導のもと冬のトレーニングに励み、自分に足りない力を身に付け、日々の練習の中で少しの変化や成長を実感しながら一つ一つのプレ

ーを磨き上げていきます。この大会には各県の上位チームが参加するので、誰もが

立てるような舞台ではないからこそ、大会に出場することに誇りと自信をもち、仲間を信じて勝ちにこだわっていきたいと思います。そして、たくさんの方々の支えと応援を胸に感謝の気持ちを忘れずにプレーをしていきたいと思っています。



弓道部

二年 関 根 里 沙



私は顧問の吉田先生、佐久間先生から、全国大会のお話や、国体、県選抜などのお話を聞いたことがあります。それから私も強い選手になりたいと思いい、昨年の一月から全国出場が私の目標となりました。

そして今回、全国大会に出場することができ、結果は、

東北大会では準優勝と射道優秀賞、全国大会では準決勝敗退のベスト三十二。東北、全国大会で吉田先生と部長にたくさん支えられ、楽しい思い出もできて、本当に感謝しています。

次は岩手県で行われる東日本大会の団体戦です。新人戦県大会の時よりも強くなった団体に戦えるように、チームでレベルを上げていきたいです。



平和の大切さ

修学旅行実行委員長

二年 鈴 木 魁 世

私達2年生188名は修学旅行で広島市の平和公園に行きました。そして戦争で亡くなられた14名の先輩方の慰霊碑に日本語と英語で「平和の誓い」と千羽鶴を捧げました。



生徒代表4名のスピーチはとても素晴らしく旭高校の先輩方だけでなく、広島県の被爆された皆さんの心にも響いたと思います。また、2年生全員、先生方や文化祭で来校された本校の先輩方、地域の方々で折られた千羽鶴は、一人ひとりの思いが込められた素晴らしい千羽鶴となりました。私は委員長として修学旅行をJRC委員の皆と運営し、今の平和がどれだけ幸せかということも2年生全員で学ぶこともでき、内容の濃い修学旅行になったことを大変嬉しく思っています。

- 青森 黒崎 新南園民
- 岩手 黒崎 東成原工
- 山形 黒崎 若松女
- 福島 黒崎 安積女 白河女
- 茨城 黒崎 水戸中
- 群馬 黒崎 碓氷中 富岡中 前橋工 明和女
- 千葉 黒崎 大宮中
- 東京 黒崎 法政大 法政女



今年度の旭賞受賞者

表彰式 日時：2月28日(金)

國分 舞 (こくぶん まい)

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、優秀な成績をおさめた。

大倉 一輝 (おおくら かずき) (陸上)

推薦理由：在学中の活動が他の模範と認められ、全国大会および東北大会に出場し、優秀な成績を残した。



稚松会活動協力金の贈呈

白河旭高等学校 《稚松会》 平成30年度歳入歳出決算書

歳入			
科 目	決 算 額	摘 要	
繰越金	687,133		
入会金	965,000	平成29年度卒業生5,000×193名(5クラス)	
雑収入	12,163	総会懇親会残金、利息	
歳入計	1,664,296		

歳出			
科 目	決 算 額	摘 要	
総務部費	518,379		
入会記念品費	238,800	卒業証書フォルダー ¥1,200×199名	
渉外費	10,000	香典(会計・白井節子さん)	
通信費	158,087	総会等案内状、切手代	
消耗品費	6,571	事務用品代	
印刷費	0		
講習会費	0		
雑費	44,396	総会会場費、高校野球広告代	
旅費	525	葬儀参列	
事務費	60,000	事務手当	
厚生部費	126,953		
新年会準備費	69,973	通信費・諸経費として耳順の会へ	
記念品費	56,980	退任役員・親子三代記念品	
事業費	427,864		
部活動援助費	300,000	白河旭高校生徒会へ	
旭高校後援会協力金	100,000	白河旭高校後援会へ	
褒賞費	27,864	旭賞	
予備費	0		
子備費	0		
歳出計	1,073,196		

歳入総額 1,664,296 円
 歳出総額 1,073,196 円
 歳入歳出差引残額 591,100 円

平成30年度稚松会会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

白河旭高等学校 《稚松会活動協力金》 平成30年度歳入歳出決算書

歳入			
科 目	決 算 額	摘 要	
繰越金	1,220,233		
活動協力金	2,495,715	平成29年度 1,258名	
雑収入	4,128	利息、会員名簿販売	
歳入計	3,720,076		

歳出			
科 目	決 算 額	摘 要	
稚松会だより費	1,482,659		
印刷費	319,464	稚松会だより印刷	
発送費	1,160,435	稚松会だより発送等	
諸経費	2,760	稚松会だより写真	
支部活動補助費	10,051		
支部活動補助費	10,051	白河、表郷支部	
予備費	0		
子備費	0		
歳出計	1,492,710		

歳入総額 3,720,076 円
 歳出総額 1,492,710 円
 歳入歳出差引残額 2,227,366 円

平成30年度稚松会活動協力金会計歳入歳出決算について上記のとおり報告します。

稚松会からのお知らせ

稚松会総会

2020年5月31日(日)
 時間：10:30~
 会場：鹿島ガーデンヴィラ
 参加申込：4月30日まで

新年会

2021年1月24日(日)
 時間：12:00~
 会場：東京第一ホテル新白河
 参加申込：12月31日まで

◎どなたでも参加できます。

出席希望の方は役員または学校へご一報下さい。

◎次期幹事(耳順の会)は昭和54年卒の方です。よろしくお願ひします。

稚松会からのお願い

◎稚松会活性化のために協力金の御協力を切にお願いいたします。

◎住所やその他の変動は事務局までご連絡下さい。

TEL 0248-22-2535 FAX 0248-24-2779

編集後記

第四代稚松会会長
 茨木章子氏のご逝去されました。
 ご生前の功績を偲びご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

文化部委員に一枚の写真が寄せられました。昭和十六年のプロの音楽家を招いての稚松会総会の写真でした。素敵な装いと歌声で会場は魅了された事でしょう。それから数年後、白女生が学徒動員で行った郡山の工場で爆撃を受けた十四名が犠牲となりました。激動・復興・平和・繁栄の昭和、平成を経て令和の時代を迎え、どんな世に成るのでしようか……世界はAI・人工知能・5Gの登場で進歩は加速度を増し、又気象変動・地球環境問題など様々な課題が浮上しています。

今、私達が何を成すべきか一人一人が真剣に取り組まねば……未来の為に。

大橋

